

平成30年度

北海道農業・農村の動向



平成30年度（2018年度）

北海道農業・農村の動向

北 海 道

はじめに

北海道の農業・農村は、厳しい気象条件のもとで、先人がたゆみない努力を積み重ねることによって発展し続け、今日では、豊かな自然と広大な土地を活かした、我が国最大の食料供給地域として安全・安心で良質な食料を安定的に生産するとともに、食品加工や観光などの産業と結びつき、地域の経済や社会を支える役割を担っています。

また、洪水の防止や水源のかん養、美しい農村景観の形成など、多面的な機能を発揮し、国土・環境の保全とともに、私たちの生活にうるおいや豊かさをもたらしてきました。

一方、担い手の高齢化や農村人口の減少をはじめ、TPP11協定や日EU・EPAの発効など経済のグローバル化の進展、消費者ニーズの多様化など、農業・農村を取り巻く情勢は大きく変化しています。

道としては、これらの情勢変化に適切に対応し、本道農業・農村を持続的に発展させていくため、北海道農業・農村振興条例に基づき策定した「第5期北海道農業・農村振興推進計画」に沿って、安全・安心な食料の安定供給はもとより、6次産業化や輸出など高付加価値農業の推進、多様な担い手の育成・確保、農業生産基盤の整備やスマート農業など戦略的な技術開発、豊かな農村づくりに向けた各般の施策を進めています。

また、近年は、自然災害による農業被害が相次いで発生しており、昨年9月の北海道胆振東部地震では、農地や農業用施設などに甚大な被害を受けました。道では、一日も早い復旧・復興に向けて、全力で取り組んでおります。

本年、令和という時代が幕を開けました。道では、先人から受け継いだ、かけがえのない農業・農村を、貴重な財産として守り、育み、次の時代を担う方々に引き継いでまいります。

本道農業・農村をめぐる動きや、道が平成30年度に講じた施策などを紹介する本書を通じて、より多くの皆様に北海道の農業・農村への関心と理解を深め、応援団となっただけなることを願っています。

令和元年(2019年)6月

北海道知事 鈴木 直道

平成30年度（2018年度）

農業・農村の動向等に関する
年 次 報 告

令和元年第2回北海道議会定例会提出

目 次

第1部 北海道農業・農村の動向

第1章 北海道農業・農村を取り巻く情勢

1 我が国の社会経済情勢と農業・農村	1
(1) 社会経済情勢	1
(2) 我が国の農業・農村の動向	2
2 食料需給を巡る動き	5
(1) 農産物の国際需給	5
(2) 食料需給構造の変化	7
(3) 食料自給率向上の取組	9
3 国際貿易交渉の動き	10
(1) TPP協定及び日EU・EPAを巡る動き	10
(2) 日米の貿易交渉を巡る動き	10
(3) 停滞するWTO農業交渉と加速化する経済連携の動き	11
(4) 国際貿易交渉への対応	11
4 農政の新たな動き	13
(1) 農業分野における外国人材の受入	13
(2) 主要農作物種子法廃止に伴う種子生産への対応	15

第2章 北海道農業・農村の概要

1 本道農業の特徴と地位	17
2 農業生産の概況	23
(1) 平成30年（2018年）の気象状況	23
(2) 平成30年（2018年）の農業生産	23
(3) 災害等による農業被害	25
3 農村地域の概況	27

第3章 農業構造

1 担い手の動向	30
(1) 農家戸数と就業構造	30
(2) 農業の担い手の動向	32
ア 認定農業者	32
イ 農地所有適格法人（法人）	33
ウ 新規就農者	37
エ 女性農業者等	42
(3) 地域営農支援システム	45
ア コントラクター（農作業受託組織）	45
イ TMRセンター	46
ウ 酪農ヘルパー利用組合	47
2 担い手への農地の集積・集約化	49
(1) 担い手への農地の集積・集約化	49
(2) 農地中間管理機構を中核とした農地の集積・集約化	50
3 農地の動向と土地利用	52

第4章 消費者の信頼に支えられた安全・安心な食づくりや 環境と調和した農業の推進

1 道産食品の安全・安心の確保	58
2 愛食運動の推進	62
(1) 愛食運動の総合的な推進	62
(2) 北海道らしい食育の推進	64
3 環境と調和した農業の推進	66
(1) クリーン農業・有機農業の推進	66
(2) 農村環境の保全と資源リサイクルの推進	70

第5章 主要農畜産物の生産等の動向

1 稲作	72
2 畑作	77
(1) 畑作物の作付動向	77
(2) 小麦	78
(3) 豆類	80
ア 大豆	80
イ 雑豆(小豆・いんげん)	81
(4) 馬鈴しょ・でん粉	83
(5) てん菜・砂糖	87
3 園芸等	91
(1) 野菜	91
(2) 花き	95
(3) 果実	98
(4) その他	102
ア そば	102
イ 特用作物	103
ウ 薬用作物	104
4 畜産	105
(1) 牛乳・乳製品	105
(2) 牛肉	109
(3) 豚肉	111
(4) 鶏卵・鶏肉	113
ア 鶏卵	113
イ 鶏肉	114
(5) 馬	115
(6) その他の畜産	117
ア めん羊	117
イ 蜜蜂	119
5 飼料作物	120
6 家畜衛生対策の推進	122
7 植物防疫対策の推進	126
8 エゾシカによる農業被害の防止等	129

第6章 農業・農村における付加価値向上

1 農畜産物の流通の動向	130
2 食料品製造業の動向	132
3 道産農産物・食品の販売拡大と輸出	133
4 関連産業との連携の強化	137
5 地域資源を活かした6次産業化の推進	139

第7章 農業経営の動向

1 農家経済の動向	144
(1) 農業経営体の経済概要	144
(2) 農業制度資金の活用	145
2 営農類型別農業経営の動向	147
(1) 水田作経営	147
(2) 畑作経営	149
(3) 酪農経営	151
(4) 肉用牛経営	156
3 農業生産資材の動向	160
(1) 農業生産資材を巡る情勢	160
(2) 種 苗	160
(3) 配合飼料	162
(4) 農業機械	163
(5) 肥 料	164
(6) 農 薬	165

第8章 農業・農村の基盤整備と技術の開発・普及

1 農業・農村の整備	166
(1) 農業農村整備の展開方向	166
(2) 農業生産基盤の整備	166
(3) 農地保全と施設管理	168
(4) 農村地域の生活環境整備	171
(5) 農村環境の保全・再生	171
(6) 事業の推進とコスト縮減	172
(7) 農業農村整備事業に係る地元負担の状況	175
2 農業技術の開発・普及	176
(1) 道総研農業研究本部等による技術開発	176
(2) 普及活動の推進	181
(3) ICT・ロボット技術を活用したスマート農業の推進	181
(4) 農業の国際交流の推進	184

第9章 農業関係団体の動き

1 農業協同組合	187
2 農業共済組合	192
3 土地改良区	195
4 農業委員会・農業会議	197

第10章 活力ある農業・農村づくり

1 農業・農村への道民理解	199
(1) 農業・農村の多面的機能	199
(2) 道民理解の促進	199
2 農業・農村の多面的機能の発揮に向けた取組	202
(1) 多面的機能の発揮に向けた取組	202
(2) 中山間地域等の振興に向けた取組	203
3 農業・農村とのふれあいの場の提供	204
(1) 都市と農山漁村の共生・対流	204
(2) グリーン・ツーリズム	204

第2部 農業・農村の振興に関して講じた施策

I 施策の基本方針と施策の重点

第1 施策の基本方針	209
第2 施策の重点	210
1 農業・農村の役割・機能に対する道民意識の共有	210
2 需要に応じた安全・安心な食料の安定供給とこれを支える持続可能な農業の推進	210
3 国内外の食市場を取り込む高付加価値農業の推進	211
4 農業・農村を支える多様な担い手の育成・確保	211
5 農業生産を支える基盤づくりと戦略的な技術開発・導入	212
6 活力に満ち、心豊かに暮らしていける農村づくり	212
第3 災害等への農業分野での対応	213
1 7月豪雨による被害への対応	213
2 台風第21号及び北海道胆振東部地震による被害への対応	213

II 農業・農村の振興に関して講じた施策

第1 農業・農村の役割・機能に対する道民意識の共有	
1 農業・農村の多様な役割・機能のコンセンサスづくり	214
2 食育や地産地消による農業・農村に関する理解促進	214
第2 需要に応じた安全・安心な食料の安定供給とこれを支える持続可能な農業の推進	
1 安全・安心な食料の安定供給	215
(1) 安全・安心な食品づくりに向けた取組の推進	215
(2) 道産食品の情報提供等の推進	215
(3) 道民運動としての「愛食運動」の総合的な展開	216
(4) 北海道らしい「食育」の推進	216
(5) 消費者と生産者との結び付きの強化	216

2	需要に応じた生産・供給体制の整備	217
(1)	消費者ニーズに対応した生産体制づくり	217
(2)	効率的で安定的な生産・流通システムの確立	219
(3)	自給飼料生産基盤の確立	220
3	環境と調和した農業の推進	220
(1)	クリーン農業の一層の推進	220
(2)	有機農業の一層の推進	221
(3)	自給飼料に立脚した畜産の推進	221
(4)	農業系廃棄物の適正処理の推進	221
(5)	防疫対策の推進	222
4	生産資材の安定供給と鳥獣害の防止	222
(1)	農業生産資材の安定供給	222
(2)	エゾシカなど鳥獣による農業被害防止対策の推進	222
5	バイオマス等の地域資源の利活用の推進	222
6	食料自給率向上への貢献	223
第3	国内外の食市場を取り込む高付加価値農業の推進	
1	付加価値の高い農畜産物の生産と新たな需要の創出	224
2	農業者と商工業者等が連携した地域資源を活かした6次産業化の推進	224
3	地域の特性を活かしたブランド化の推進	224
4	農畜産物や食品の輸出促進に向けた環境整備	225
第4	農業・農村を支える多様な担い手の確保	
1	新規就農者の育成・確保	226
(1)	農業への関心や就農への意欲の喚起	226
(2)	就農に向けた相談活動	226
(3)	研修などの就農準備に向けた支援	226
(4)	地域における就農の支援	226
(5)	就農後の経営安定と新規就農者の地域への定着促進	227
2	担い手の経営体質の強化	227
(1)	研修教育の充実	227
(2)	経営体質の強化等	227
3	農業法人の育成	228
4	家族経営体を支える地域営農支援システムの整備・活用	228
(1)	農作業受託組織等の育成・確保の推進	228
(2)	農産物等の流通・加工施設の整備	229
(3)	経営革新や多角化の取組の推進	229
(4)	農業団体の機能の充実	229
5	女性農業者等が活躍できる環境づくり	229
第5	農業生産を支える基盤づくりと戦略的な技術開発・導入	
1	農業生産基盤の整備の推進	230
(1)	農業生産基盤の整備	230
(2)	農地や農業水利施設等の保全管理	232
(3)	農業水利施設等の適切な維持管理	232

(4) 農村地域の防災・減災	232
2 優良農地の確保と適切な利用の促進	233
(1) 計画的な土地利用の推進	233
(2) 意欲ある担い手への農地の利用集積・集約化	234
3 多様なニーズに応じた新品種・新技術の開発と普及	234
(1) 地域農業の競争力を高める技術の開発・普及	234
(2) 環境と調和した持続的な農業の推進	234
(3) 研究と普及の連携による地域支援	234
(4) 農業生産基盤整備における新しい技術の開発や普及の推進	235
(5) 農業分野の国際交流の推進	235
4 ICTを活用した省力化や高品質化などスマート農業の実現に向けた 新技術の開発・普及	235
第6 活気に満ち、心豊かに暮らしていける農村づくり	
1 地域の特色ある資源を活かした農村づくりの促進	236
2 農業・農村の多面的機能を発揮する取組の推進	236
(1) 地域住民等も参画した共同活動の推進	236
(2) 多面的機能を発揮する環境づくり	236
3 都市と農村の交流の促進	236
(1) 農業・農村に対する理解の促進	236
(2) グリーン・ツーリズムの推進	237
(3) 農村移住・定住の促進	237
4 快適で安心して暮らせる生活の場づくり	237

参考資料

北海道農業・農村振興条例（全文）	239
第5期北海道農業・農村振興推進計画の概要	244
用語の解説	254

《 事 例 紹 介 》

1. 持続可能な世界の実現を目指して -----	16
2. 農業と福祉との連携（農福連携）の推進 -----	29
3. 農業経営相談所の取組 -----	36
4. 新規就農者等を支援する託児所開設 -----	40
5. 農業大学校で「北海道農業経営塾」を開講 -----	44
6. 水稻を中心とした高収益家族経営の実現（天皇杯受賞） -----	76
7. 醸造用ぶどうの苗木確保に向けた取組 -----	101
8. ニュージーランド・北海道羊協力プロジェクト -----	118
9. 「食王国・北海道レセプション2018 ～東京2020、その先の道へ」の開催 --	135
10. 中国向け北海道米の輸出拡大に向けた取組 -----	136
11. アジア初！ロータリー型搾乳ロボット「AMR」導入 -----	154
12. 早期の営農復旧に向けた道の取組 -----	170
13. 酪農学園大学との連携協定に基づく取組 -----	173
14. 建設コスト縮減に向けた取組 -----	174
15. 倒れずにたくさん穫れる！早生金時「十育B84号」 -----	178
16. 北海道のおいしい地鶏がリニューアル「北海地鶏Ⅲ」 -----	178
17. スマート農業の普及に向けた取組 -----	183
18. 海外研修を通して大きく成長 -----	186
19. 米づくり体験学習（田んぼの学校） -----	201
20. 鶴居村へ、魅力発掘カメラ旅！ -----	207